

治療を化学的な視点からサポート

くすりは？

薬は人体にとつては異物でもあることをご存知でしょうか？

人間には本来自然治癒力が備わっていますが、その自然治癒力だけでは病気が治らない場合に化学物質を体内に取り込むことで、症状をやわらげ治療を早めます。私たちは疾病の回復を期待して使用する化学物質を医薬品として扱っていますが、その一方で期待しない効果が副作用です。薬を不適切に使用すると治療効果が得られないだけでなく、逆に健康を損なう可能性もあります。

つまり薬はご自分の状態に合わせて使い方をしないと毒になる一面も持っています。

実は多面的な薬剤師

主な薬剤師の職種は、病院勤務薬剤師、調剤薬局（ドラッグストア）で勤務する保険薬剤師、公務員（県庁や保健所、公立病院などの公的機関）、卸業・製薬企業、教育・研究職に大別できます。このように薬剤師は医療、公衆衛生、企業、教育と幅広い場面で活動しています。私たち病院勤務薬剤師は市販薬は取り扱いませんが、病院内の医療スタッフとともに薬物の適正使用を推進しつ

つ患者さんの治療に貢献できるように日々努力しています。

自治医科大学附属病院薬剤部について

自治医科大学附属病院の薬剤部とちぎ臨床試験推進部には全部で76名の薬剤師が働いており、常時1000人近い入院患者さんや2500人を超える外来患者さんの治療を支えています。そのため薬剤師の業務も多岐に渡り、分担制となつていきますので主な業務をご紹介します。

○調剤業務係

内服薬や外用薬の調剤を行います。

○注射供給・注射調製業務係

病棟で使用する注射薬のセッティングや抗がん剤などの点滴薬を特殊な環境下で混ぜます。また市販されていない医薬品を院内製剤として調製します。

○病棟業務係

医師や看護師などの病棟スタッフと、より安全で効果的な治療を行うように診療サポートします。また入院患者さんへ内服指導を行います。

○チーム医療係

院内の様々な専門医療チームに専従して、治療支援を行います。

薬のスペシャリストとして

○医薬品情報室

医療スタッフからの医薬品に関する質問への応対や医薬品情報を発信しています。

○治験推進室

治験薬を使用する患者さんの治療支援を行います。

その他にも薬学部の学生実習の受け入れや研究活動も行います。

疾病の治療は、単に手術や薬を使えば良いというわけではなく、適正に使用するために薬同士の飲み合わせや、薬と食品との飲み合わせにも



自治医科大学附属病院 薬剤部

薬剤師

しば 祐輔

注意したり、患者さんの全身状態に合わせた薬物投与量をチェックしたりしなければいけません。また薬の投与後は治療効果と副作用の観察も必須となります。薬剤師は薬の化学的な性質を考慮して薬物療法を支援しています。

身近な存在としての薬剤師

当院は急性期かつ重症度の高い患者さんを中心に高度な治療を行うため、医師はそれぞれの専門域を持つスペシャリストです。患者さんと一緒に最適な治療法を見出しながら実践しますので、私たち薬剤師も高度な知識と技術でサポートする一方で、在宅治療の患者さんや他院の患者さんにはどうしてもサポートが行き渡りにくくなります。そこで日常の診療や健康維持には、地域の調剤薬局の薬剤師がキーマンとなります。

健康年齢を長く保つには、かかりつけ医だけでなく、なじみのある薬剤師をぜひ見つけて、ちょっとしたことでも相談してみてください。きっと薬剤師が薬を渡すだけの存在ではなく化学的な面から親身にサポートする存在であるとわかって頂けると思います。もちろん入院中も遠慮なく薬剤師を活用してください。